

フィールドにおける消石灰の経時的な劣化の検討及び 農場における使用実態調査

鳥居恭司^{1)†}河合瑛佑¹⁾大内一敏²⁾

1) 東京農業大学農学部動物科学科 (〒243-0034 厚木市船子1737)

2) 東洋濾紙(株)濾紙開発部 (〒957-0101 北蒲原郡聖籠町東港5-2265-14)

(2023年6月30日受付・2023年9月21日受理・2023年12月22日公開)

要 約

フィールドにおける消石灰の経時的な劣化について検討するため、季節ごとにいくつかの試験区域に消石灰を散布し、経時的な水酸化カルシウム割合の測定及び消石灰有効性確認試薬による色の変化を測定した。その結果、全体を通じて1週間程度でほとんどの水酸化カルシウムが炭酸カルシウムに変化していることが明らかとなった。並行して検討に用いた試薬は、消石灰表面に滴下した色の変化と水酸化カルシウムの割合の変化が一致することが示され、現場での簡易的な試験として十分用いることが可能であることが示された。さらに、畜産現場における消石灰の使用実態を調査したところ、散布間隔が長い農場が多く、消毒効果がなくなっている可能性がある。今回用いた試薬を利用することで今後消毒効果を保持し、かつ効率よく散布を行えるようになると考えられる。

——キーワード：劣化，消石灰有効性確認試薬，消石灰，消石灰の使用実態調査。



本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/76/12/76_e329_/article-char/ja

----- 日獣会誌 76, e329～e335 (2023)